

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A日程『出題の意図』
文学部心理学科

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業	問題番号	
以下の心理学科のアドミッションポリシーに記載された力を問うものである。 本学科では、(1)人間の「こころ」の動きや行動、人間関係について学ぶことに関心を持つ人、(2)心理学の学びを通して論理的思考やコミュニケーション力を身につけることに意欲的な人、(3)社会生活における良好な人間関係の構築や維持、集団や組織の運営技術など心理学を社会に活かしたい人、(4)心のケアや福祉の増進を図れる「心の専門家」を目指す人を求めている。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A 日程『出題の意図』
文学部情報社会学科

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業	問題番号	
文学部情報社会学科のアドミッション・ポリシーには、「映像・活字・ICT などのメディアによる情報活用に関心を持ち、・社会のさまざまなフィールドに足を運んで事実に触れ、・発見したことをさまざまなメディアで人に伝えることに喜びを感じる人を求めている」と記載をしている。特に、「社会の様々なフィールドに足を運んで事実に触れる」という側面について、本学科では地域、文化施設、キャリア形成に関する学修のカリキュラムを用意している。具体的な科目として、「現代社会の探究 D」では、文化施設としての社会教育施設の意義を、若者文化と学びでは、「若者のキャリア形成」を取り巻く現状について、取り扱っており、これは「社会のフィールドに足を運んで事実に触れる」ための基盤となる知識を提供する授業である。 今回の模擬授業は、この授業のエッセンスを取り入れ、「若者のキャリア形成を促す学びとしての社会教育」をテーマとして取り扱い、社会教育に対する基本的な知識や、若者のキャリア形成を取り巻く社会の動向について解説をする。これにより、情報社会学科におけるアドミッション・ポリシーとの関連性を持たせている。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A日程『出題の意図』
文学部情報社会学科

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業 (グループワーク)	問題番号	
情報社会学科の1年次の授業で行われるニュース番組を作るというグループワークを出題。 現在、大きな話題となっている「AI が人の職場を奪う」というテーマに、グループで協働して原稿を作り、リハーサルまでを行う。このことを通して、時事ニュースを把握しているか、未来の動きを予測しているか、どのようなニュースに情報的価値があるか、学生同士でディスカッションができるか、リハーサルで表現力を発揮できるかを問う。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A日程『出題の意図』
文学部国際文化学科英語コミュニケーション専攻

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業	問題番号	
第二言語習得研究という研究分野やその中で扱われている外国語の学習効果に影響を与える要因の 1 つである「動機づけ」について理解し、講義内容を 400～600 字にまとめることができるかどうかを測る。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A日程『出題の意図』
文学部国際文化学科国際文化専攻

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業	問題番号	
日本語方言（九州方言）の概要についての講義内容を400字程度にまとめる作業を通じて、 ・やや専門的な内容の授業を理解し、要約する力 ・文章力（構成力、文法力、語彙力、文体選択力） などを総合的に測ろうとした。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A日程『出題の意図』
文学部社会福祉学科

日 程	10 月 11 日	科目名	模擬授業	問題番号	
(1) 社会的功績のありようを題材した問題設定により、人間の生活と営みについて洞察する力を確認する。 (2) 「登場人物の印象とその理由」を問うことを通じて、自身の考えを導き出し、説明できる思考力と表現力を確認する。 (3) 「どういう思いで社会福祉を学ぼうと考えているか」を問うことにより、現時点での社会福祉に関する知識および理解度を確認する。 (4) 小論文全体を通じて、文章力を含めた一般的な知識を確認する。					

2026年度久留米大学総合型選抜（実践型）A 日程『出題の意図』
商学部

日 程	10 月 12 日	科目名	模擬講義	問題番号	
現在、わが国は拡大する財政赤字によって、歳出総額に占める公債費が増加しており、財政の硬直化が進んでいるとともに、今後、少子高齢化が加速度的に進んでくと予想される中、財政の立て直しが喫緊の課題の 1 つになっている。わが国の歳入の主な財源は租税であり、令和 7 年度一般会計当初予算における税目別の歳入に占める割合は、第 1 位が消費税、第 2 位が所得税となっている。消費税および所得税は各々その特性において、メリットとデメリットがあるものの、現在、消費税は、少子高齢化や財源の不足といった状況に対応した社会保障を実現するため、「社会保障と税の一体改革」の名の下に、社会保障の主要な財源と位置付けられている。こうした世情の中、石破首相が近年の物価高に対する対策の一つとして、消費税減税を検討する可能性を示唆する報道がされ、消費税減税の議論に注目が集まった。そこで、受験者に歳入・歳出や社会保障費等の現況、消費税および所得税の各々の特性等を踏まえ、消費税減税についての自身の考えを問うた。					